

グラフィックデザイナー(梅原デザイン事務所・代表) 梅原 真(うめばら まこと)氏

1950年1月 高知市生まれ
1972年3月 大阪経済大学経済学部卒業
住所・事務所所在地 高知県香美市土佐山田町



○大学卒業後、高知県に戻り、高知放送プロダクション美術部入社。
日本テレビでの研修を経て、スタジオの大道具担当に。

○25歳の時、休職してスペインへ。1979年に退職しアメリカ大陸を
横断、サンフランシスコ滞在を経て帰国。

○1980年、梅原デザイン事務所を設立。

全ての基本は一次産業だ。一次産業は日本の風景を紡ぎだしている。風景を見れば、その国が
どんな国かがわかる。一番大事なものは風景で、日本の良き風景を残すため、「デザインを一次
産業再生のためにつかいたい」をテーマに、「一次産業×デザイン=ニッポンの良き風景」という
方程式を実践し続けており、その活動は日経ビジネスオンラインに「シアワセのものさし」として
シリーズ連載された

○2010年5月、高知県産業振興スーパーバイザーに就任

○2010年6月、日経新聞出版より「おまんのモノサシ持ちや！」が出版される。

○2010年7月、羽鳥書店より著書「ニッポンの風景をつくりなおせ」を出版。

○2010年7月、本県の第1回トップレベルセミナーの講師として来県、講演を行っている。

○県内でのデザイン活動例として、鶴の湯温泉の宣伝ポスターがある。

○2011年 1月秋田県イメージアップ戦略アドバイザーに就任

<主なデザイン活動歴>

- 1988年 かつお一本釣り漁師とともに「一本釣り・薫焼きたたき」をプロデュース。
「漁師が釣って、漁師が焼いた」というフレーズ展開により8年間で20億円の産業を
作り出す。
- 1989年 4Kmの砂浜を巨大ミュージアムに見立てる「大方町・砂浜美術館」をプロデュース。
22年目の今年にはモンゴルでTシャツを展示する「ひらひらします。」を開催。
- 1995年 住民株式会社四万十ドラマをプロデュースし、現在も進行中。
- 2005年 「しまんと新聞バッグ」をプロデュース。
四万十川のこころざしにあわせ「流域で販売するものはすべて古新聞で包もう！」を
コンセプトに世界に向けて展開中。
- 2009年 「高知県の森林率84%は日本一」に自分自身がサプライズ。
高知県土はCO2吸収マシンととらえるプロジェクト「84はちよんプロジェクト」を
「はちよん会議」にてスタート。

